

為替週間展望 = ドル円は上値の重い動きが継続か

[4月10日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		4月3日～4月7日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	132.94	133.76(3)	130.64(5)	131.88	-0.98
ユーロ・ドル	1.0848	1.0973(4)	1.0788(3)	1.0916	+0.0077

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	27,518.31	-523.17	日本10年債利回り	0.461	+0.110
ダウ平均株価	33,485.29	+211.14	米10年債利回り	3.311	-0.238

<来週の主要経済統計等>

- 10日 日本2月経常収支
世界銀行と国際通貨基金 (IMF) の春季会合 (16日まで)
- 11日 中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数
ユーロ圏2月小売売上高指数
IMFが世界経済見通し (WEO) を発表
- 12日 日本2月機械受注高
米3月消費者物価指数
カナダ銀行 (BOC) 政策金利
米3月財政収支
米連邦公開市場委員会 (FOMC) 議事要旨 (3月21～22日分)
20カ国・地域 (G20) 財務相・中央銀行総裁会議 (13日まで)
- 13日 豪3月雇用統計
中国3月貿易収支
英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支
独3月消費者物価指数
ユーロ圏2月鉱工業生産指数
米3月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数
独2月経常収支
- 14日 スイス3月生産者・輸入価格
カナダ2月製造業出荷
米3月小売売上高、米3月物価価格指数
米3月鉱工業生産・設備稼働率
米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値

【前回のレビュー】ドル円は3月24日に130円を割り込み、一時129.60台まで下落した。その後は130円を回復して、31日には133円台まで上昇を見せた。今後は米経済指標に左右される展開が見込まれるが、底堅い推移が続くとみられ、ドル円はもみ合いながらも堅調な推移が見込まれるとした。

【米国で景気悪化への警戒感広がる】

欧米での金融システム不安が一服したことから、株式や為替市場は経済指標に反応しやすい流れとなっている。3日発表の3月の米ISM製造業景況指数は46.3となり、市場予想の47.6や前回の47.7を下回った。内訳では新規受注が44.3となり、前回の47.0から低下した。雇用は46.9となり、こちらも前回の49.1から低下した。米国での景気減速への警戒感から、米長期金利が低下するとともにドル円は132円台前半まで下落する展開となった。

4日発表の2月の米雇用動態調査（JOLTS）の求人件数は993.1万件となり、市場予想の1050万件を下回った。求人件数の1000万件割れは2021年5月以来となる。求人件数の減少を受けて、労働需給が緩和するとの観測が広がり、景気減速への警戒感が高まった。

5日発表の3月の米ADP雇用統計は前月比14.5万人増となり、事前予想の21万人増を下回った。さらにこの日発表の3月の米ISM非製造業景況指数は51.2となり、事前予想の54.5を下回り、前回の55.1から大幅に低下した。内訳では新規受注が52.2と前回の62.6から大幅に低下、雇用は51.3と50を上回ったものの、前回の54.0から低下している。これまで好調さを維持してきたサービス業にも景気減速の動きが広がってきた可能性が出てきた。

CME FEDウォッチによると、5月の米連邦公開市場委員会（FOMC）では政策金利据え置き確率が51%前後、0.25%の利上げ確率が49%前後となっている。このところの米経済指標の悪化を背景に据え置き見通しが上昇していた。ただ、6日のセントルイス連銀のブラード総裁が追加利上げを支持する姿勢を表明したことなどから、ドル売りの動きが一服するとともに利上げ確率も上昇している。

今後も金融システム不安の後退を背景に米国を中心とする経済指標に左右されやすい展開が続くとみられる。4月10日の週で最も注目されるのは、12日発表の米3月消費者物価指数となる。事前予想では前年比は+5.2%で前回の+6.0%から伸びが鈍化する見通し。コア前年比は+5.6%と前回の+5.5%から伸びが加速する見通し。

事前予想を下回るようならドル売りに傾きやすい展開が見込まれる。一方で、予想を上回るようなら、米連邦準備制度理事会（FRB）による利上げ継続姿勢が意識されて、ドル買いになりやすい展開となろう。

このところは米経済指標の悪化が続いていることもあり、米長期金利が低下して、ドルは売りに押されやすい展開となっている。米連邦準備制度理事会（FRB）による昨年からの上昇継続によって、今後はインフレ率の伸びが鈍化するともに景気減速の動きが広がるとみられる。こうした中、ドル円は上値の重い動きが続くこととなりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、129.00～134.00円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、10日に日本2月経常収支、12日に日本2月機械受注高、米3月消費者物価指数、米3月財政収支、13日に米3月生産者物価指数、米新規失業保険申請件数、14日に米3月小売売上高、米3月物価価格指数、米3月鉱工業生産・設備稼働率、米4月ミシガン大学消費者信頼感指数速報値などがある。

【ユーロドルはもみ合いながらも堅調な推移か】

低調な米国の経済指標の影響でドル売りの動きが広がったことで、ユーロドルは4日に1.0970台まで上昇した。5日にはフランス、ドイツ、ユーロ圏の3月のサービス業PMIがいずれも市場予想を下回り、ユーロドルの上値を抑えた。その後は1.09台での推移となっている。

ユーロ圏での高いインフレ率を抑えるための欧州中央銀行（ECB）による利上げ姿勢は継続される見通ししながら、景気減速への警戒感も広がっている。こうした中、ドルの弱さも加わり、ユーロドルはもみ合いながらも堅調な推移を見せることとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0800～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、11日に中国3月消費者物価指数、中国3月生産者物価指数、ユーロ圏2月小売売上高指数、12日にカナダ銀行（BOC）政策金利、13日に豪3月雇用統計、中国3月貿易収支、英2月鉱工業生産指数、英2月製造業生産指数、英2月貿易収支、独3月消費者物価指数、ユーロ圏2月鉱工業生産指数、独2月経常収支、14日にスイス3月生産者・輸入価格、カナダ2月製造業出荷などがある。

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。